

平成27年度東京鶴城会総会・懇親会に是非、ご参加ください！

東京鶴城会便り

発行責任者
田中幸資

必ず来てはいよ。アルカディア市ヶ谷で待ってとっですばい！

懐かしいあの頃の話をして来てください。(昭52年卒 塚原直美)

昭38年卒の西山君、沼田君、伊津野君、久米君。雪子ちゃん、京ちゃん、伸ちゃん、道ちゃん、5月23日の東京鶴城会で待ってま〜す。田中幸資会長は、ただ今、息切れ寸前！?(昭38年卒 大久保千鶴)

「56会」のみんな、そして宇高卒のみなさん！総会に繰り出そう。楽しい仲間が待てるよ。(昭31年卒 大川勝利)



東京鶴城会幹事会メンバー



思い出に残る楽しいひと時を満喫してください！



是非、仲間を誘ってきてください。気軽に、普段着で立ち寄り下さい。たのしさ満載ですよ。(K幹事)

平成26年度東京鶴城会フォトコレクション



今年の東京鶴城会に是非、ご参加ください。大いに楽しみましょう！

アメリカで食べられない日本の味とは？

ご存知の通り、アメリカは何でも大きい。家も広いしスーパーもテーマパークのように大きい。ハンバーガーも大きく、一皿料理も食べきれないくらいある。アメリカ大陸も大きいため、色々な観光地もたくさんある。せっかくアメリカに住んでいるのだからと思い、週末はできるだけ外出した。よく出かけたのが新鮮な野菜を売っているウィルソン・ファーム

(<http://www.wilsonfarm.com/>)という農園である。自家農園で栽培された野菜がきれいに陳列され、野菜をふんだんに使ったお惣菜や肉料理などは、日本ではお目にかかれなような新鮮さがあり、よく買ってはみんなでワイワイ、サミュエル・アダムスというボストンビールを飲みながら味わった。

アメリカで日本食材を探すのには全く困らない。アメリカの日本食材の値段は、日本の1.5倍くらいはかかるが、母国の味を異国で味わうのも、またオツなものである。不思議なことに日朝関係は微妙なのに、アメリカのスーパーでは日本食材と韓国食材を同時に扱うスーパーが多数存在し、食のボーダーレスを実感したものである。アメリカで食べられない日本料理は何か？ 鮎はいたるところにあり、今でもブームが続いている。ラーメンなどはNYでは有数のチェーン店が点在し、納豆も我が「**まるきん納豆**」も（東京では銀座館でしか買えないのに）、日本食材店で購入できる。

流通が発達し、ほとんどの日本食が食べられるアメリカで無性に食べたくなるその日本食とは何か？ それは「**卵かけごはん**」である。

衛生上の問題で、アメリカでは卵は生で食べないように、となっている。卵の殻に着いている可能性があるサルモネラ菌の感染が問題となり、加熱処理をして食べることが推奨されている。アメリカの卵は日本の卵と見た目が全く異なる。当然外見は多少の白色や薄茶色の違いはあるものの、日本とアメリカでの見た目の卵は変わらない。その違いは割ったときに分かる。黄身の色が違うのである。日本の卵の黄身は濃い黄色であるが、アメリカのそれはレモン色なのである。黄身の色が濃くはなく、薄いのである。中身を見たときの多少の違和感が残るものの、味の違いは分からない。

前述のウィルソン・ファームに通う理由の一つが、新鮮な卵が手に入るからでもあった。当然生食は勧められていないのではあるが、新鮮な卵であるから、多少のリスクを負ってでもアメリカでは食べられない「卵かけごはん」を食べたいという欲求を満たすためでもあった。カリフォルニアで作られたお米を炊き、ボストンで採れた卵を、日韓問題なんて我われの知ったことかと同居している日本・韓国食材店で買った醤油をかけて食べる不思議な「卵かけごはん」。あの時の感動は今でも忘れられない。

食の話題でもう一つ。大学院時代に日本人で企画・運営した「**ジャパン・トリップ**」というものがあつた。日本に興味のある学生を対象に、約1週間かけて日本を勉強のために周るのである。日本の病院やトヨタの工場（カイゼン）、孀恋の昔ながらの景色を楽しみ、地元の人達と杯を交わしながらの交流は、とても印象に残るものであつた。また、ヒロシマにも足を延ばし、原爆の恐ろしさを学んでもらつた。実際に原爆ドームや資料館を見た学生のほとんどが「アメリカでは語られていない事実を知ることができた」という感想を聞き、過去の事実を語る上での政治的な背景の存在も垣間見ることができた。同時に、日本も然りか、と考えるようにもなり、多くの国際的事実が、報道される国々で多少異なることを経験したのも今回の留学の時であつた。

多少話がずれたが、そのジャパン・トリップで学生が驚いたのが、「**日本の給食**」である。都内の幼稚園を訪問し、幼稚園生と一緒に給食を味わつた。色とりどりの食材を使い、栄養のバランスも十分に考慮されている給食が、日本の食育の原点でもあり、長寿を支えていることを学べたことは収穫であつた。脱脂粉乳やクジラの身が出てきた世代ではないが、何気に食べていた給食は、とても美味しかった。早口で食べては御代わりの列に並び、牛乳やデザートが余れば一生をかけるかのように、本気でじゃんけんした。その給食が、世界からみれば究極のバランス食とは、鼻水垂らして小学校に通っていたころには想像すらしなかつた。「フツー」の給食が世界から見ればそんなに凄いことか！と知ることができたのは、とても有意義なものであつた。母子手帳も然り。診療でフツーに見ていたが、講義で紹介したら教授がびっくりするくらい、優れものらしい。日本って、素晴らしい。

内山 伸（平成5年卒）



永青文庫（えいせいぶんこ）の所在地は、江戸時代の細川家屋敷跡となっており、運営主体は公益財団法人永青文庫で、理事長は細川護熙元内閣総理大臣（元熊本県知事）とのことです。

先日、細川家伝来の文化財を所蔵する、文京区・永青文庫『信長からの手紙』展（会期終了）へ行ってきました。（写真）

展示では、現時点で唯一確認できる織田信長の自筆書状を拝見できました（その他は秘書役の右筆が代筆）。

各手紙の解説を読むと、自分が抱いていたイメージと異なり、本能寺の変の直前まで明智光秀を信頼し、部下に対しても気を遣う人柄だったのが分かりました。

また、羽田空港内には、主に永青文庫の企画展を催している小さな美術館があります。少し歩きますが、帰省やご旅行の際、もしお時間がございましたら是非。

浅沼信雄（平成9年卒）

- 永青文庫（文京区目白台、椿山荘近く）
<http://www.eiseibunko.com/>
- Discovery Museum（羽田空港 第2旅客ターミナル3F端）
<http://www.discovery-museum.com/>

ふるさととは遠くなったなあ…(父の思い出)

今年の夏に七回忌を迎える母のもとへ、大正末生まれの「肥後もっこす」そのものの父が正月早々旅立った。晩年は老人ホームや病院の入退院の繰り返しで、父にとっては不本意な最後だったろう。

今は、下界のあちこちに散らばって住んでいる10人の子と19人の孫、20数人の曾孫の姿を一足先に逝った母とふたりで見守ってくれていることだろう。

大矢野中学校卒業まで天草の実家で育った私は、父と遊んだ記憶がほとんどない。父は家族を食わせるためにほとんど「出稼ぎ」に行っていて不在だったからだ。たまの父の休暇に故郷に戻った時は、鋸や鍬、釜などを持っていて、先祖から引き継いだ近くの山や畑へ手入れも兼ねて燃料用の薪を調達したり、「かんちょ」(薩摩芋)掘りに出かけたりしていた。それに付き合うのが親子のレクリエーションを兼ねた生活の一部だった。

椎茸の菌(種)を調達して本人にとっては、「秘密の場所」に以前に切り置いた椎の木を使って自前の椎茸を育てていた。米の磨ぎ汁を溜めていたバケツを提げ持って、「これがしいたけにはいいんだ!」と山道を下って秘密の場所まで水をやりに行っていた。母はそれを見て、いつものようにあきれていた姿を思い出す。帰省した際に、お土産に持たせてくれた立派な干しシイタケは、「親爺、うまかったばい!」。

私が大学を卒業する時には、わざわざ一人で東京まで来てくれたことがあった。仕事をしていなかったから碌な相手も出来ず、要町のアパート暮らしの部屋にいっしょに泊まって帰った。酒もほとんど飲めなかった父とはあまり語り合った記憶もない。今にして思えば、もっと元気なうちに、いっぱいしゃべるとけばよかったなあと後悔が残る。

天草の実家は両親もいなくなり寂しくなった。兄弟姉妹は、別荘代わりにたまに風通しに行ったりしているようだ。父が亡くなり今回久しぶりに家族で帰郷したが、これから、ますますふるさととは遠くなるばいね。

(昭50年卒 森内)

幻のクマモトオイスター

牡蠣といえば広島、松島(宮城)、北海道が有名ですね。皆様はこの産地がお好きですか?

数年前アメリカで牡蠣の生産が激減してしまい、危機に瀕したことがあったそうです。この時、強い生命力で生き残りピンチを救ったのが、戦後日本から種カキとして輸出されていた**熊本産**の

シカメガキでした。ここで一躍注目されたこの牡蠣は「**Kumamoto**」としてブランド化され、現在では逆輸入されて東京の高級オイスターバーで人気となっています。

このシカメガキの輸出に技術者として尽力したのが、太田扶桑男(おおたふさお)という人です。

太田扶桑男氏は岩手県で生まれました。戦後、熊本県の鏡町漁協に着任し、アメリカへの輸出用種カキの採苗



創刊号からシリーズ化した熊本弁講座ですが、なぜか“隠れファン”が多く、このコーナーを楽しみにしている会員もいらっしゃるため、調子に乗って、今回は「け」、「こ」編です。熊本弁の良さを存分にご堪能ください。声ばだして読みなっせ。

- ①「ケ、ケー」(来なさい)(ちなみに熊本では行くと来るが逆とです。相手の立場に立ってるから)
「こっちゃんけよ」東北弁も同じですよ。ク(食う)(こちらに来なさい)
- ②「ケマツル」(つますく)
「きのうたいね、自宅の階段でケマツして、ケガしたった」(昨日、自宅の階段でつますいて、ケガしたんです)
- ③「・・・ゲナ」(～らしい、～そうだ)
「あすこん娘は、こないだ、よか男と結婚したゲナ」(あそこの娘は、この間、カッコいい男と結婚したそうだ)
- ④「コスカ」(ずるい)
「あん男は、たいぎゃな、コスカもんね」(あの男は、とても、ずるいよね)
- ⑤「コソバイカ」(くすぐったい)
「あんあり、褒めんでくれ。コソバイカばい」(あまり、褒めないでよ。くすぐったいよ)
- ⑥「コマゴツ」(小言、愚痴)
「あん人は、いつでん、コマゴツばっか言わすもん」(あの人は、いつでも、小言ばかり言うんだよね)
- ⑦「ゴテドン」(ご亭主)
「ゴテドンがぐじゃっぺだるけん、まだ盃やせんだった」(亭主がぶ男だったので、まだ婚礼はしてない)
- ⑧「コータ」(買った)
「酒けばコーテきたけん皆で宴会たい。」(酒を買ってきたのでみんなで宴会をしよう)

弁護士 伊藤 尚 (平成11年卒)

東京都千代田区永田町2-4-3 永田町ビル8階
奥川法律事務所 (TEL:03-3580-6358)
個人または会社等の法律関係でお悩みがあれば、
ご遠慮なく何でもご相談下さい。

宇土高校の卒業生、またはその関係者の方には、初回法律相談料無料(30分5,400円)でご相談をお受けします。

生産を成功させました。

この他にも、養殖が困難だった海苔の人工採苗を研究して海苔博士とも呼ばれています。

その後アメリカでは、「**Kumamoto Oyster**」として人気を確立したものの、地元では絶えてしまい幻の牡蠣となりました。しかし最近、地元の漁業関係者の力で、クマモトオイスターの商品化に向けた取り組みがはじまりました。

小粒でクリーミー、貝柱が太く、味が濃厚という特徴を持つクマモトオイスターは、「**世界で一番美味しい**」との評価も得ているようです。この牡蠣が八代市鏡町の鏡オイスターハウスで食べられるようになりました。二月で今期の営業は終わっていますが、次のシーズンに行ってみてはいかがでしょうか?

先人の知恵と現在の漁師さんの情熱から生まれた奇跡の味を是非、味わってみたいものです。

塚原 直美(昭52年卒)

14年ぶりの阿蘇観光、 そして36年ぶりの 同級生との再会

昨年（平成26年）は3回熊本に帰りました。妻と二男が同行した2回目となる8月下旬の帰省では、典型的な観光地を訪ねました。

1日目の午後は**熊本城**です。小雨模様が幸いし、暑すぎず、汗をかかずに、見学することができました。皆様ご承知のように、かつて宇土櫓は**宇土城**（宇土城は多分宇土高裏ですよ）から移築されたと言われていましたが、平成に入ってからそれは否定されているようです。勿論、宇土櫓の階段は昔のまま狭く急勾配です。なお、僕が熊本城を訪れるのは3年連続です。中国や韓国からの観光客も多く、一昨年は日本人より韓国からのお客さんが多いと感じた位でした。最近、東京駅、新宿駅等は中国からの観光客で溢れかえっていますが、熊本城もそんな感じですよ。

2日目は**阿蘇**に行きました。阿蘇を訪れるのは14年ぶりです。先ず、ミルクロードから大観峰に向かうことにしました。ミルクロードは通る度にその風景に感動しますが、今回もただただ魅入られました。僕が宇土高生の頃は、菊池阿蘇スカイラインのルートと国道57号線からやまなみハイウェイに入り、九重方面に行く道は相当整備されていたと思いますが、そこを繋ぐ牧草地を通る道（即ちミルクロード）は、平成になってから気軽に通行できるようになった気がします。今や多くの方が、湯布

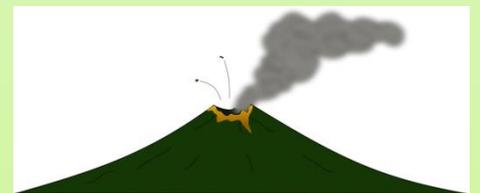
院や黒川温泉に行くのはミルクロードを利用していますよね。また、県外の方が最も感嘆する熊本の景勝地はミルクロードですよ。涅槃像を連想させる阿蘇五岳をかぶと岩や大観峰から堪能し、次に、北側の登山道路を利用し、草千里と中岳の噴火口まで行きました。その時は警戒レベル1だったので火口近くまで行くことができましたし、御嶽山の爆発前でしたので能天気火口を眺めていました。5日後の8月30日にはレベルが引き上げられ、11月下旬には噴火が起き、以後は時に熊本市まで火山灰が降ることはご存知と思います。その後、**白川水源**に立ち寄り高森から国道265号線を利用し、国道218号線に抜けました。265号線は、阿蘇から218号線に合流するまでは道は安心ですが、それから椎葉村に南下する箇所は「酷道」と思われます。道の駅清和文楽邑（旧清和村）で休憩し、**通潤橋**に向かったところ、運よく放水中でした。通潤橋は18年ぶり、放水に遭遇したのは20年ぶりでした。橋の袂に向かう間に水が止まってはならないと思い、上の駐車場から眺め続けました。通潤橋の近くにある五老ヶ滝はとても壮観ですが、時間と体力の関係で断念しました。

昨年3回目の帰省は、熊本での昭和53年卒の同級会に合わせ、11月下旬でした。この時も**宇土半島**を一周ドライブしたり、水前寺公園等を散策しましたが、やはり、一番の楽しみは同級生との再会です。3年連続で参加しましたが、今回も卒業以来36年ぶりに会った方が何人かいました。3年の時に

授業を担当して下さった先生も4名参加され、感動と驚きの同級会でした。僕は深夜12時には体力がもたず、ホテルに帰りましたが、何人かの強面の女性達（*皆さん美人ですが）は、午前3時までカラオケで盛り上がっていたそうです。

なお、昭和53年卒の同級会は、同級生の実家が営まれている「瑞恵」（鶴屋デパート近く）で行うのが恒例です。とても料理が美味しくて安価なので、最近は帰省の度に、同級会に関係なく、顔を出しています。最後に、熊本の同級生から聞いた寂しくなる話です。熊本市中心の交通センター隣にある、「県民百貨店」が2月末に閉館したそうです。1973年に「岩田屋伊勢丹」としてオープンしたあのデパートです。その後、「熊本岩田屋」、「くまもと阪神」と名を変え、2011年には県民百貨店となりましたが、遂に“力尽きた”ようです。桜町一帯は大規模な再開発事業があるようで、センタープラザ地下街も3月で営業を終了するそうです（この便りが出るころには過去形ですね）。善し悪しは分かりませんが、それを論じる資格がないことは自覚していますが、寂しい気持ちになった次第です。「泉の広場で」で始まるあの歌はどうなるのでしょうか。

昭和53年卒 泥海次郎



今回は、地名の由来について調べてみました。閑静な住宅街の東京都世田谷区にある「用賀」（ようが）ですが、鎌倉時代初め頃、この地に真言密教の瑜伽（ゆが）の道場があり、そこからこの地名が付いたようです。ちなみに、瑜伽（ゆが）は「ヨガ」の意味で、サンスクリット語のヨガを漢字に当てはめたようです。

東急電鉄用賀駅（写真左）から徒歩2～3分のところ、真言宗智山派真福寺（写真右。総本山は京都智積院）があります。この寺院の山号は、「瑜伽山」といいます。時間をつくって、密教系の仏教とゆかりのある「用賀」を楽しく散策してみても如何でしょうか。

知ったかぶりの“まめ知識” - vol.4

-知っとなはっですか？ -
「世田谷区用賀」編



東急電鉄用賀駅



真言宗智山派真福寺(山号: 瑜伽山)

2年5組編です！

「宇土高2年生」編に入る前に、生まれて初めて、世の中に「**バレンタインデー**」という、文化に触れた年でもありました。おバカな私は、「きっと俺も貰える。机の中や下駄箱の中に入ったら、どぎゃんしよう。」と2、3日前から、妄想を繰り返し、当日を待ったのですが、結果はご想像の通りです。同じクラスの野球部のキャッチャーが手作りの大きなハート形のチョコレートをもたらてるのを見て、「バレンタインデーなんて知らなかったことにしよう」と思うことにしました。

赤点、追試、を繰り返しながら、何とか2年生に進級でき、下宿生活でも、新一年生に“いらんこつぱっかり”を教える、立派な？先輩になりました。

入学の時には、あれほど、周りがみんな自分より立派に、また、女生徒もみんな「よかおなご」に見えたのが、不思議と、この2年5組は、男女とも自分と同じ匂いのする、落ち着ける空間でした。この1年間は、今考えても、人生の中で一番濃厚な時間であり、空間だった気がします。まあ、冷静に考えれば単に「**劣等生クラス**」だったのかもしれない。

毎朝の会話は通学列車内の「よかおとこ、よかおなご」から始まり、学内でも、先輩、後輩の「よかおとこ、よかおなご」で終始し、授業中は、「面白か話して、笑わせにやいかん」だけ考えているようなクラスでした。その頃の私は、学業はそっちのけ、色気づくことだけに全力を尽くしておりました。髪の毛は、今では考えられない、**ロング**。床屋に行っても、「切ったか切らんか判らんぐらいにしてはいよ」と店主を困らせ、服は、都会で4、5年前に流行したらしい、「**アイビールック**」。ズボンは裾が狭まったスリムタイプ、シャツはボタンダウンの綿シャツの格好で、宇土本町を闊歩しておりました。大矢野にその格好で帰ると、母ちゃんから「あんたがズボンなモンペンごたったい、品の悪か」と言われておりました。因みに、男子生徒は大体同じ格好で、女子生徒はスカートの丈の長さを競うように長くして、「**ぞろびいて**」歩いている時代でした。

ところで、この昭和48年は宇土高校の野球部が大活躍した年で、熊本県

予選で決勝まで進んだ年でした。

野球部が青春の汗水を流し、必死に母校のために戦っているのです。当然、みんな藤崎台球場で、一緒に応援で戦わなければいけないのです。しかし、その時、我々旧1年5組の男女10人のバカ学生は、ことあるうちに、湯島にキャンプに行っておりました。応援よりも、男女の出会いを求めていたのです。本当に罰当たり者です。そのキャンプの夜、肝試しをしたのですが、元来私はお化けが怖い小心者です。男女一組になって、島の裏側にある、使われてない小屋の中のタオルを持ち帰らなければならないのです。私の相手は、一年生の時に交換日記を交わしていたKMさん。それまで勿論手も握ったことなどありません。みんなに勧められて、手をつないで出かけることになりました。初めて手をつなぐ緊張と、お化けが怖いのが重なり、つないでいる手が汗ばみ、震えていたのです。怖がっているのを気づかれないかハラハラものでした。そのせいで、初めて手を握ったにも関わらず、非常に残念ながら、一切感触を覚えていません。そういう事があつたにも関わらず、秋になり、私は、同じクラスのある女の子を好きになりました。その人は、入試の時の前泊の時に一緒に騒いだほかの中学校卒業の方です。

2年生になって、同じクラスになり夏休み明けまでは、他のみんなに対してと同じように、ただ笑わせるだけの対象でした。ところが、秋になる頃から、その女の子の姿ばかりを追いかけている自分に気がきました。それまでも、一方的ですがあつちの娘、こつちの娘と好きになる自分はいたのですが、こんなに、胸がキュンとする感覚は初めてでした。たぶん、私の初恋だったのでしょう。

その頃、私はいつも行動を共にする、悪ごろ友達のIY君に、ちょっと相談のつもりで話をしてみました。ところがですたい。そいつも、その女の子が気になっていると言うではありませんか。他にもう一人OT君も好きなんだってということでした。翌日、学校でOT君にも確認したら、「そぎゃんたい」と言うのです。普通だったら、3人とも「そうか～」で終わ

るんですが、IY君は違います。後日ですが、他の女の子と「超高校級」のカップルになった奴です。ちょっと違うんです。

IY君が「じゃんけん打って、勝ったもんから順番に告白しよい」と言い出したのです。彼女に対する気持ちは本物の私は、納得は行かない部分はあるものの、告白するチャンスだと思いOKしました。順番はIY君、私、OT君の順番で3日に分けて、放課後に2年生の校舎の非常階段の踊場で、告白することになりました。IY君の告白の結果は、その日に下宿に一服のためにやって来た本人からもたらされました。討死でした。2日目、私の番です。ドキドキしながら放課後を待ち、約束時間の少し前に非常階段の踊場に到着して待つことにしました。間もなく彼女が現れ、最初の一言「あんたちやバカばい」。あ～やっぱりダメばいと思いながら、「俺と付き合ってくれんや」と絞り出す。以外にも返事は「お願いします」。天にも昇る気持ちで、一緒に教室へ戻り、その日は同じ方向にある彼女の下宿まで送り、私の下宿で一服しながら待ってるIY君とOT君に「Tちゃん、明日は無かよ」と、結果報告。翌日から、夢心地の学校生活。毎日一緒に登下校。クリスマスプレゼントの手編みの手袋や、バレンタインデーのチョコレートのプレゼントは頂いたが、手も握れず。そんな、幸せな日々も3学期の終業式の帰り道、「3年になれば受験で大変だけん、もうやめよう」の一言で終焉。

卒業してから一度、帰省した時、当時大学生だった彼女と再会し、映画を見に行きましたが、今はどうしているのか、男はバカですから、40年経った今でも、たま～に夢に出てきます。このように、2年5組の生活は充実して終わりを告げます。彼女に振られて「**抜け殻**」になった、3年3組編は次号にて。

(もう少しお付き合い下さい!)

松藤 明(昭50年卒)



母の入院に思う

母が圧迫骨折で、今年1月16日に突然入院してしまいました。2008年の2月に父を亡くして以来、一人で熊本で生活している母だが、今までは特に病気やけがをすることがなく健康だった。その母が入院してしまって気が動転してしまいました。

元々これからの事を話し合うということで、私と埼玉にいる妹と母の3人で会うことになっていたの、予定していた1月21日に帰省することになった。朝の飛行機で熊本に着いて、母と妹が外出許可をもらっていたので、自宅で会う事になった。

私は、今まで親不孝というかあまり帰省していなかったの、この宇土から熊本市内に移った自宅（主に高齢者が住む団地）に関して、何となく違和感がある。そんな思いを抱きながら、母と話をしてみても驚いた。前に比べて物忘れがひどくなっていたのである。今まで元気だったとはいえ、母は81歳である。物忘れがあっても不思議でない。やはり、あまり帰省していなかったの、気付くのが遅かったなと、自分自身を反省した。

翌日、市役所で申請手続きする事を行い帰ることになったが、母と話す度に、この物忘れは認知症の初期段階なのではなかろうかと、少し不安を覚えた。

母が認知症になって介護が必要になったら、今住んでいる千葉から熊本に戻る事も考えなくてはならないし、もしかしたら仕事もやめる事も考えなくてはいけないかも知れない。とにかく、将来について考える必要が出て来たのである。ただ、具体的にどうしようという事がまだ考えられないし、取り敢えず今までの罪滅ぼしとして、2月と3月は母の様子を見るために帰省する事にした。

帰るたびに、母の物忘れは相変わらず直らないなあと感じながらも、当初の予定通りの2ヶ月たった3月18日に母は退院することが出来た。介護認定では一番下の「要支援1」なので、それ程、他人の援助を必要とする事はないのだが、一度入院を経験した事もあり、これまでの様に、一人で生活するのは大丈夫だろうか心配になる。やはりこれからは、母の様子を見るために2~3ヶ月に1回は帰省して、同時にこれからの事を具体的に考えていかねばならないなあと思う、今日この頃である。

藤野 博英（昭54年卒）

卒業50周年記念思い出に残る同窓会

日時は2014年10月25日に熊本市のANAホテル（ニュースカイホテル）の宴会場で開催されました。参加人員は102名（参加名簿より）の多数が出席する同期同窓会となりました。卒業当時の名簿によると298名（物故者除く）になるので、34%以上の出席となりました。同期卒業の3名に1名は参加した盛況な同窓会となりました。

同窓会は当時の生徒会長の朽木輝道君の挨拶に始まり、恩師として高島先生（通称ゲタさん）の挨拶を頂き、乾杯の音頭を1組の阿曾田清君の発声で歓談と宴会が開始しました。

私は、永里君（現在、鶴城会本部の事務局長ばしよんはる）の指名で写真撮影を担当したので、会食のテーブルが10テーブルあって、その全部の席を写真撮影で回ったので全員の人と会ったのですが食事はあまりとれませんでした、そのせいか？同期生の顔を見ても誰が誰だか？50年ぶりに会うと思ひ出さないものです。関東の「ろくご会」からの出席者12名はすぐわかるのですが、卒業後初めて会う人はわからなかったです、特に女性は何度名前を聞き返しても当時とは大きく変わってわからな

ったです。

歓談の時間もそんなわけで、あっという間に過ぎてしまい、あの当時、淡い片思いの恋心を秘めていた「あの乙女（誰かは秘密）」とも会えて、有意義な同窓会でした。

当然のように卒業時の組に別れて、二次会会場の新市街のスナックに繰り出して、私は6組だったので、3組と6組の合同二次会となりました。

3組と6組は美女揃いの同窓生の中でも粒ぞろいで、楽しい二次会となりました。当然ながらカラオケあり、チークダンスありで大変盛り上が、気が付いた時には夜の11時頃まで遊んでいたと思います。こんなに楽しい思いをするのであれば次回同窓会への参加と期待が大きくなりました。

また、翌日は仲間3人で人吉温泉（あゆの里）に宿泊し、温泉はもちろん、球磨川の川下り、当然、球磨焼酎の酒盛り（宿の女将さんを交え）を満喫し帰りは鹿児島空港から帰途に着きました。とても贅沢なひと時でした。感謝。

昭和40年卒 境屋由夫

卒業50周年修学旅行に参加して

関東在住の宇土高校同期卒業生（65年卒）の集まり「ろくご会」を代表して平成26年に「50年ぶりの修学旅行」、熊本で開催された「卒業50周年記念同窓会」への参加を報告します。

まず、「ろくご会」主催の卒業50周年記念修学旅行は7月16～17日に実施され、日光の豪華リゾートホテルでの贅沢な修学旅行となりました。集合場所は、東武浅草駅とわかりづらい場所にも関わらず、何と遠い九州から3名も参加してくれました。福岡から矢野君、八代から米村君、そして宇土から永里君！総勢11名の参加で感謝！感謝！です。

この修学旅行の提案は「ろくご会」の永井君、河野（毅）君、萩原君で、幹事と案内を境屋が拝命担当しまして、「ろくご会」全メンバーに書面で案内した結果の11名です。旅行の始まりは、東武日光駅から「特急きぬ115号」に乗ったところから始まり、座席に座ると早速、原酒のオンザロックが提供されて旅行のムードは、窓の景色をゆっくり眺めるよりも、早く車内宴会へと高まりました。

歴史ある東照宮を修学？観光しました。1時間半ほど観光後、ホテルの送迎バスに無理言って表参道まで迎えに来て頂き、無事、奥日光の豪華リゾートホテルに到着し、ゆっくり温泉と部屋で寛いだあと、豪華なフルコース食事をレストランで賞味した後、ロイヤルスイートルームにて、食後の宴会となりました。

飲みながらの会話は、しだいに佳境に入り学生時代の楽しかった思い出も含め、宇高時代の悪行の数々が酒の勢いで出てきて、「な～んね！ソヤンダッタツネ！」と、この場にいた人だけが知る面白い話でいっぱいでした。それでも、午後11時過ぎにはほとんどの人が寝床について夜更かし無しの健康的な一夜でした。

翌日は、朝のバイキングで健康的な食事を頂き、奥日光の爽やかな空気を胸いっぱい吸って、帰り支度とホテル前での記念写真を撮り、東武日光駅を11時25分発の「特急きぬ118号」で東武浅草駅までの車内宴会が再開し、浅草到着後も有志による二次会となりました。とにかく、飲める人は、飲み続けの修学旅行でしたが、元気なうちにしか出来ない大変楽しい修学旅行となりました。

（昭和40年卒 境屋由夫）



東武日光駅には14時頃着き、酔い心地のままホテルの送迎バスにて東照宮表参道まで便乗し、



東京宇城市会
宇城市出身の方、是非、ご参加下さい。

塚原 直美（昭52年卒）

〒154-0002
東京都世田谷区下馬3-32-8-205
E-mail: yavo-reene@s9.dion.ne.jp

PAPER AND PRINTING
グローイン

代表 森内 忠美
（昭50年卒）

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-62
2F
TEL & FAX 03(3259) 1116
E-mail: growintn@aol.com

昭40年卒 境屋 由夫
（宇土市本町5丁目出身）

実家は蒲鉾製造販売の老舗です。
宇土に御帰郷の切は是非、「境屋かまぼこ店」にお立ち寄りください。
住所：宇土市旭町421-4
TEL：0964-22-0162

松藤 明
（昭和50年卒）

初めての経験を満喫しました！

恥ずかしながら、66歳になって初めて経験したことが3つあります。まずは**歌舞伎観劇**です。歌舞伎と言っても、一つは、いわゆるスーパー歌舞伎と称される市川猿之助の舞台です。通し狂言『獨道中五十三驛（ひとりたびごじゅうさんつぎ）』でした。新橋演舞場に行くまでは「16時半から21時まで退屈しないかなあ」とやや不安でしたが、始まるとその凄さと面白さに圧倒されて、あっという間の4時間半でした。勿論、休憩を挟みながらの4時間半ですが、猿之助の18役の早変わりや化け猫の宙乗り、水中での大立ち回りなど見どころたっぷりで大いに楽しめました。

続いて浅草公会堂で松也の歌舞伎鑑賞です。こちらは仮名手本忠臣蔵の5幕・6幕が主体でしたが、スーパー歌舞伎とは違った面白さがありました。次回は歌舞伎座で本格的な歌舞伎観戦にもチャレンジしてみようと思っています。

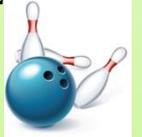
次が**Pリーグ観戦**でした。こちらは、TV神奈川やBS日テレなどで放映されているので、ご覧になられた方も多いかも知れませんが、女子プロボレーの競技会です。田町のボレー場のゲスト席で2録画分の女子プロボレーの熱い戦いを観戦しました。ボレー全盛時代を過ごした自分には、澁刺とした若き女子ボレー達と50年近く前の中山律子、須田開代子、並木恵美子などと比較して、先ずはそのファッションの素敵さに目を奪われました。そしてワングー

ム終了ごとにきちんと整列してサインや握手、一緒に写真撮影など、まるでプロボーラーはアイドル扱いでした。因みに自分は、仕事絡みで森沙奈江プロと知り合いになり、先日は赤坂で昼食をともにしました。残念ながら2人だけではありませんでしたが。

3つ目の体験は**ミュージカル鑑賞**です。パンフレットではジャニーズwestの桐山・神山の2人が主体でしたが、舞台ではマルシアの歌唱力と演技にうっとりしました。TVで見せるオトボケはなく素晴らしかったです。それにも増して、圧倒されたのが真琴つばさでした。さすが宝塚の男役出身だけあって迫力満点でした。時が経つのを忘れさせる、迫力満点の舞台で大いに満足しました。

私は団塊の世代で、今まではただ“馬車馬”のように働いてきましたが、これからは、今まで以上に初めての体験をする機会を増やそうと思いました。皆さんも春に向かって**初体験**を経験してみませんか！

萩原 秀文（昭42年卒）



＜編集後記＞

50歳を機に「限界への挑戦」として、東京マラソンに参加して3年が過ぎました。昨年は、「新たな挑戦」として、マスターズ陸上大会にデビューしました。高校時代は陸上部に所属し、社会人として1988年までは、地域の陸上競技連盟に所属し、各陸上競技大会の跳躍種目に参加していました。

マスターズ陸上の世界では、幅広い年齢層（主に35歳からの5歳毎の年齢クラス別）の“アスリート”が各種目で競い合っています。私は走り幅跳びと三段跳びの種目で同世代の方々と競い合っています。53歳の私は「M50」のクラスで、まだまだ若造です。各大会では、上位3位まではメダル、上位6位までは賞状が授与されます。昨年の各マスターズ陸上競技大会に出場し、合計2枚の賞状をもらいました。週末だけの練習ですが、新たに跳躍用のスパイクを2足購入し、将来的には、夢の舞台である、「世界マスターズ陸上競技選手権大会」（2年に1回開催）に挑戦したいと思っています。

幹事会・事務局からのお知らせとお願い

今回、会報『東京鶴城会便り』も第9号の発行になりました。故郷の風と香りをお届けしたいと思い頑張っています。宇土中・高校の卒業生という接点を大事に、人とのつながり、人生の潤滑油としても楽しい同窓会です。いくつかのお知らせとお願いです。

- (1) **会報の原稿を常時募集します。**
 - ・あの日・あの時、故郷のこと、こんな人あんな人等テーマは自由です。発行を楽しみにしている方が多くいらっしゃいます。あなたも投稿してみませんか。
 - ・感想、希望などお聞かせください。気楽にお願いします。
- (2) **住所、氏名などの変更は是非ご連絡ください。消息をご存知の方もお知らせください。個人情報に他に漏らすことは絶対ありません。**
 - ・連絡がないと途絶えてしまいます。
 - ・同期会などの名簿をお送りください。
- (3) **年会費、広告、寄付をお願いします。**
 - ・年会費が活動のベースです。単年度の収支は赤字です。わずかの繰越金で食いつないでいます。
- (4) **総会・懇親会への出席をお待ちしています。**
 - ・同期、知り合いをお誘いの上ご来場ください。お一人様も、もちろん大歓迎です。

連絡先は、封筒の差出人（事務局）へ。原稿は事務局または、編集部の坂崎までお願いいたします。

Email 河野 kohno@msd.biglobe.ne.jp
坂崎 mori.reds-041205@jcom.home.ne.jp

56会（昭和31年）
大川 勝利
櫻井 正男
島田 勝年

ウイルス対策・除菌・抗菌・消臭
『マタタコロ』
株式会社エースネット

萩原秀文
（昭42年卒）

38会代表

田中 幸資
大久保 千鶴
（昭38年卒）

車の買い取り・販売のご相談
は日東金属株式会社・車輛部

代表取締役 永井 秀夫
（昭40年卒）

〒158-0083 世田谷区奥沢7-11-5
TEL.03-3704-0161 Fax 03-3704-0170